

国際会議参加校との交流会 in English

本校が主催する「高校生国際平和会議」の前日、7月27日（木）に参加校との交流会を実施しました。国外からは、University Laboratory School（ハワイ）、Visser't Hooft Lyceum（オランダ）、NPO 法人 Beautiful World（ウクライナ）、県外からは、三島北高等学校（静岡）、国際高等学校（奈良）、追手門学院大手前高等学校（大阪）、関西創価高等学校（大阪）、六甲学院高等学校（兵庫）、県内からは、創成館高等学校、諫早商業高等学校、大村高等学校、長崎南高等学校、長崎東高等学校の計12校・1機関、約50名が参加しました。国外の高校生は書道体験や弓道の実演に感激していました。



会議本番に向け、オンラインで練習を行ってきた会議参加者たちが初めて対面で会うこととなり、みな感激していました。改めて自己紹介をしたあと、アイスブレイクを行い、実行委員が企画したクイズ大会で大変盛り上がりました。長崎をテーマにしたクイズで、景品は名物のカステラとよりよりです。その後昼食をともにし、生徒たちは英語をとおして友情を深めていました。

合同平和フィールドワーク

交流会後、平和公園へ移動し、広島市立舟入高校と東京都立南多摩中等教育学校を加えた約70名で平和フィールドワークを実施しました。本校高2生が平和記念像について英語で説明しました。「右手は原爆、左手は平和を意味し、顔の表情は犠牲者への祈り、原爆に対する怒り、悲しみ、平和への決意ともとれる。観る人によって、様々なとらえ方ができます」との説明に、みな聴



き入っていました。爆心地公園と原爆資料館では、平和案内人を務めるガイドさんから原爆の実態について説明を受けました。涙を流す生徒もおり、核兵器の非人道性と被害の凄惨さを学びました。その後、会議室で今回のフィールドワークの感想を話し合いました。原爆被害の凄惨さについて初めて触れ衝撃を受けた県外生徒も多く、改めて平和への想いを共有しまし

た。特にウクライナの高校生は、避難民としての立場から、避難前の状況や、現在のロシアのウクライナ侵攻について、心に共振するところがあり、日本の高校生と共に、平和への強い決意を新たにしていました。最後に、「私にとって世界平和とは何か。そしてそれを達成するためにどんな行動をするか。」をテーマに、班ごとに協議を行いました。各々が素晴らしい意見を発表していました。関西創価高校の生徒からは、「いま、私は本当に勉強したい。世界平和を達成するためには、知識や教養が絶対に必要で、それが礎になる。そしてそれと同じかそれ以上に、人間力を高める必要がある。今回の学びも、みんなとの対話も、そのための一つだと思う」との言葉がありました。世界平和へ向け、参加者全員で協働し、対話的で深い学びを実現する、最良の機会となりました。

